



【共通】ケーブルを変換器へ接続する際の注意点

UFB-20/UFR-40におけるケーブル配線時の注意点を以下に示します。本書では、センサケーブルの場合を例に説明しますが、入出力ケーブルの場合も同様です。

● ケーブルグランドの外観と各部の名称

ケーブルグランドは、図1に示す部品で構成されています。現場でケーブルを挿入するまでの間に内部の回路や部品を保護するために、納入時にはシールプラグという部品で塞がっています。センサケーブルを挿入するときに、このシールプラグを外す必要がありますが、その際、同時にシールを外してしまわないようご注意ください。

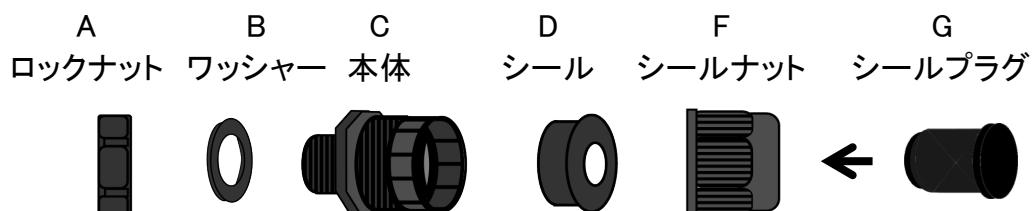


図1(a) ケーブルグランド構成図

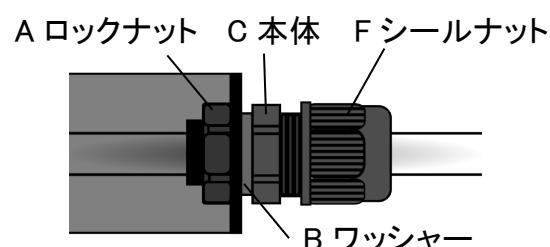


図1(b) 筐体に取り付けたケーブルグランド

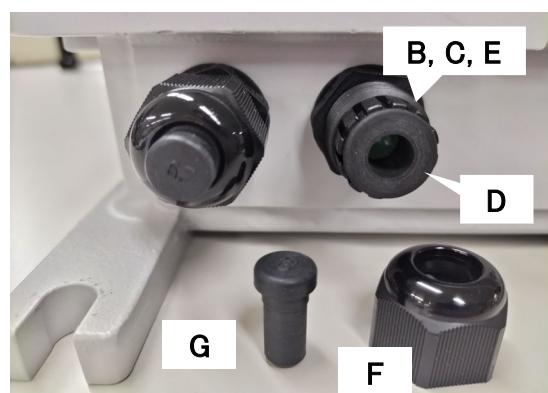


図1(c) ケーブル插入部の外観

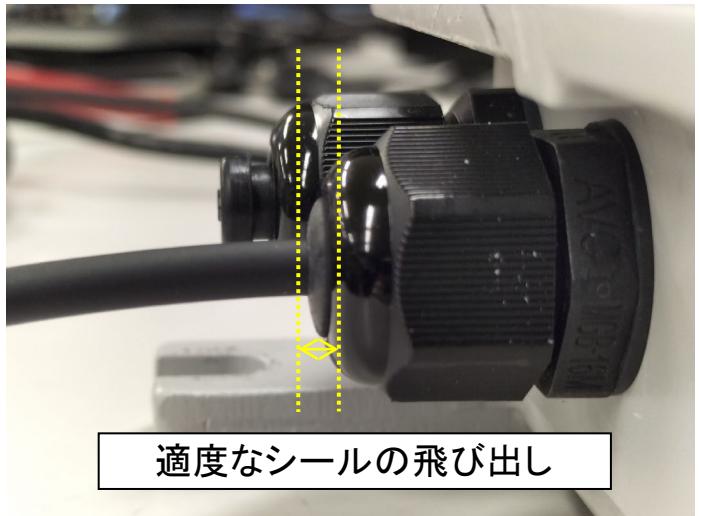
左: 納入時の状態、右: F シールナットと G シールプラグを外した状態

● シールナットの締め付け目安

トルクレンチで推奨締め付けトルク値にて締め付けてください。トルクレンチを用意できない場合には、工具で締め付けて負荷を感じた時点から 90° (=1/4回転) 増し締めした状態が最適です。(図2)

推奨締め付けトルク値

- ・センサケーブル用・・・1.2[N·m]
- ・入出力ケーブル用・・・1.8[N·m]



適度なシールの飛び出し

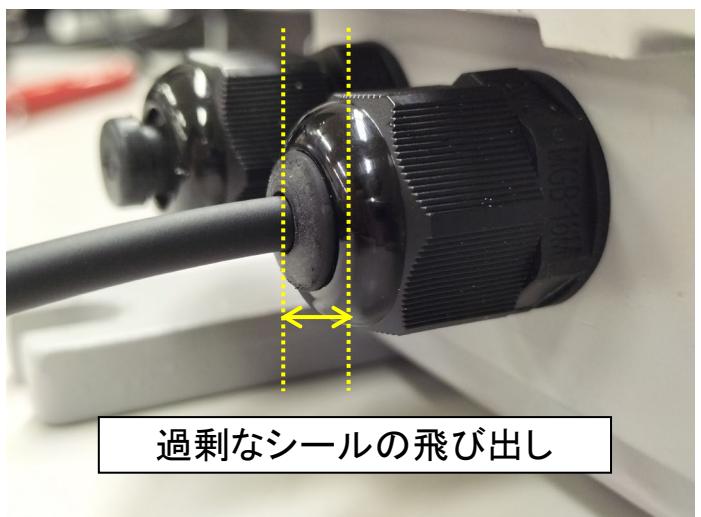
図2 ○適正なトルクで締めた場合

締め付けすぎると、不具合の原因となります。(図3)

- ・ケーブルの芯線にダメージを与える
- ・内部のシールが変形・破損し防水性能が低下する
- ・ケーブルグランドにひびが入る



ケーブル周囲に空洞が見える



過剰なシールの飛び出し

図3 ×適正なトルクを超えて締めた場合